

○空き店舗を活用した優良事例 〈Cafe&bar くりとくら（栗山町）〉

■開店の経過

「Cafe&bar くりとくら」は、空知管内 JR 栗山駅付近の前通り商店街に、「栗山町地域おこし協力隊」であった2人が任期中に起業した地域総合商社『オフィスくりおこ』が立ち上げた飲食店。ガバメントクラウドファンディングを立ち上げ、約 20 日間で目標額の2倍を超える寄附の調達に成功し、2018 年 11 月にオープンに至った。

店舗の開設に当たっては、町内の不動産業者と打ち合わせを重ね、町の時計店であった物件を活用、DIY による改装を行い、仕上げは町民参加のワークショップという形で完成させた。店内内装デザインは町内建築デザイナーが手がけ、インテリアや内装資材まで、すみずみまで栗山にこだわった。

メニューにおいても地元栗山の卵や米、野菜などを使った料理、栗山の酒蔵小林酒造のお酒など、地場産食材にこだわっている。

店内にはピザ釜があり、地元の野菜をたっぷり使用した本格的な日替わりピザを目当てに来る人も多い。

栗山町に、ヒトやモノ、情報が集まる場所を作るため、定期的に店内でのイベント開催を行い、町内外のお客様と交流を行っている。

〔時計店の空き店舗〕



〔Cafe&bar くりとくら〕

■出店のねらい

運営会社オフィスくりおこのミッションは『日本の地方を、ワカモノ・ヨソモノが活躍できるフィールドに』。栗山町関係人口創出のため、開店にあたっては、「コミュニティ」づくりをコンセプトとした。

栗山町ふるさと納税業務の外部委託も受けており、返礼品の道内最古の酒造「小林酒造」のお酒や、農産物などの魅力を発信しようという思いもあった。

住民が課題を共有し、町の資源の再確認を行い、町内外の地方創生に関心のある栗山町関係人口を生み出す場所として、「地域密着型 cafe&bar」としてオープンさせた。

〔手作りの店内〕



■新たな取り組みについて

栗山町地域おこし協力隊としての任期は、最長3年となっているため、2人は任期終了後の定住・定着のため、「合同会社オフィスくりおこ」を協力隊任期中に起業した。

2019年10月に「Cafe&bar くりとくら」空きスペースをリノベーションし、ゲストハウス「くりとまる」をオープンさせた。2部屋を改修し、6台のベッドを設置している。

現在は、コロナの関係で1日限定一組の受け入れとしているが、町での学びを目的とした大学のゼミやサークルなど、学生の利用も多い。今後は、栗山町への移住検討者の体験移住受け入れも積極的に行っていく予定。

食事の提供は行っておらず、利用者には地域のお店で飲食してもらい、地域の人たちと交流を深めてほしいという思いで運営している。

そのほかの取り組みとして、「栗山町ふるさと納税業務」や自らの経験を生かした「地域おこし協力隊採用・研修・育成業務」、「視察・講演」など幅広く事業に取り組んでいる。

2020年7月には栗山町産品 EC サイト「Chestnut&market（チェスナッツ&マーケット）」をオープンさせ、町内農産物の他、ターゲットのニーズに応えるデザイン性のある栗山町ご当地グッズを製作・販売している。



〔オリジナルグッズ販売〕

取材先

■Cafe&bar くりとくら

(カフェバル くりとくら)

栗山町中央2丁目95 (合同会社オフィスくりおこ)

TEL : 0123-76-7700

■運営の課題・今後の展開

新型コロナウイルス感染症拡大により、一時期は夜間の休業を余儀なくされたが、新たな取り組みとして、2020年10月に、「Cafe&bar くりとくら」の平日ランチ時間を利用して、まちなかレストラン「Yum's Kitchen (ヤムズキッチン)」をオープンさせた。料理が好きな方や飲食店の開業を目指している方に日替わりでシェフになってもらう事業となっており、料理の提供を通じて、飲食経営のノウハウを習得する場としての活用や食を通じてビジネスの展開、栗山町商店街の発展に繋げていく。

このように、さまざまな取組を通じて、持続的に商店街に新しいトピックス、コンテンツや商品を生み出し、栗山町のPR活動に繋げている。

コロナの関係で、町内外の交流は難しい状況になっているが、今後も、栗山に興味を持った人が実際にまちを訪れ、滞在を通じて交流を深めていく「コミュニティーツーリズム」の実践を行い、栗山町関係人口の創出・拡大に努め、起業支援や事業支援を通じ、地域のワカモノ・ヨソモノが活躍できるまちづくりを行い、培った経験や知識を、新たな地域おこし協力隊や、北海道中に住む、同じ思いを持った皆さまと共有し、共に地方創生を展開していきたいと考えている。